

小 学 校

平成28年度

# 教育研究員研究報告書

体 育

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
V	研究構想図	3
VI	研究内容	4
1	基礎研究	4
2	調査研究	8
3	研究の視点に基づいた内容	11
4	実践事例	19
VII	成果と課題	24

## 研究主題

# 「運動の楽しさや喜びを味わい、 主体的・対話的で深い学びのある体育学習」 ～ 陸上運動系（走運動）の学習を通して ～

## I 研究主題設定の理由

「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（平成 28 年 8 月 26 日）」の、「1. 現行学習指導要領の成果と課題」の中で、以下の内容が示された。

- ・生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、体育と保健の一層の関連や発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化を図りつつ、指導と評価の充実を進めてきたこと。
- ・「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」のバランスのとれた指導に留意するとともに、学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視する等、知識や技能の習得や向上のみに偏らない指導に留意してきたこと。
- ・体づくり運動を小学校低学年から実施したこと等により、運動やスポーツが好きな児童・生徒の割合が高まったこと等、一定の成果がみられること。
- ・依然として運動する児童とそうでない児童の二極化傾向がみられることや、体力水準が高い昭和 60 年ごろと比較すると依然として低い状況がみられること。

これらの現状を踏まえて、小学校体育科においては、運動がもたらす心と体への効果を再確認し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成や、健康の保持増進のための実践力の育成及び体力の向上を目指す必要がある。そのためには、「児童一人一人に運動の楽しさや喜びをより一層味わわせること」「学習指導要領の内容を確実に指導・評価し、その学びの質を高めること」が大切であると考えた。運動の楽しさや喜びは、運動の目的や価値観により多種・多様であるが、本研究では、各運動の特性や発達の段階に応じた楽しさや喜びと捉えた。また、学習指導要領の内容を確実に指導・評価し、その学びの質を高めるために、「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング」の視点）に向けた授業改善を視野に入れた。新しい知識や技能を習得したり、それらを活用して課題解決に向けた探究活動を行ったりする中で、児童は必要な資質・能力を身に付け、その結果として、共通研究テーマ「思考力・判断力・表現力等を高める」にも迫ることができると考えた。体育科での「主体的・対話的で深い学び」とは何かを明らかにし、どのように試行錯誤していけば、課題解決的な学習の充実を図ることができるのかを追究していく。

本研究では、研究領域を「陸上運動系（走運動）」とした。陸上運動系（走運動）の動きは、シンプルな動きで構成されていることから、技能差が明らかで優劣が見えやすい。運動の苦手な児童にとっては劣等感をもちやすいため、いかに運動の楽しさを味わわせるかが重要となる。また、陸上運動系（走運動）の動きは、多くの運動の基盤となる動きであり、日常生活に直結する身近な動きでもあることから、共通の課題認識をもって学び合える運動である。

以上のことから、陸上運動系（走運動）において、児童が運動の楽しさや喜びを味わい、質の高い課題解決的な学習を展開することを目指して、本研究主題を設定した。

## II 研究の視点

本研究では、陸上運動系（走運動）の学習において、課題解決的な学習を基盤として、児童が運動の楽しさや喜びを味わい、主体的・対話的で深い学びのある体育学習の指導の在り方を明らかにするために、次の視点から研究を進めた。

### 1 指導内容の明確化と評価の重点化【何を学ぶのか】

指導者が教えるべき内容と評価する内容を明確にするため、次の3点を設定した。

- (1) 発達の段階に応じた単元計画
- (2) 評価する児童の姿の具体化と評価の重点化
- (3) 学びの状況に応じた支援の工夫

### 2 課題解決的な学習の充実【どのように学ぶのか】

陸上運動系の学習における課題解決的な学習を充実させることができるようにするため、学びの過程を明らかにした。

- (1) 主体的・対話的で深い学びのある課題解決的な学習の流れ
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫

## III 研究仮説

児童が学ぶべき内容を確実に指導・評価し、体育科における主体的・対話的で深い学びの在り方を明確にすることができれば、基礎的な知識・技能を身に付け、運動の楽しさや喜びを味わいながら、自らの課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を高めることができる児童を育てることができるであろう。

## IV 研究方法

### 1 基礎研究

「思考力・判断力・表現力等の捉え」や、「運動の楽しさや喜びの捉え」、「陸上運動系（走運動）の運動の楽しさや喜びの捉え」、「陸上運動系（走運動）の身に付けさせたい動きの捉え」、「主体的・対話的で深い学びの捉え」について、先行研究を基に研究を行った。

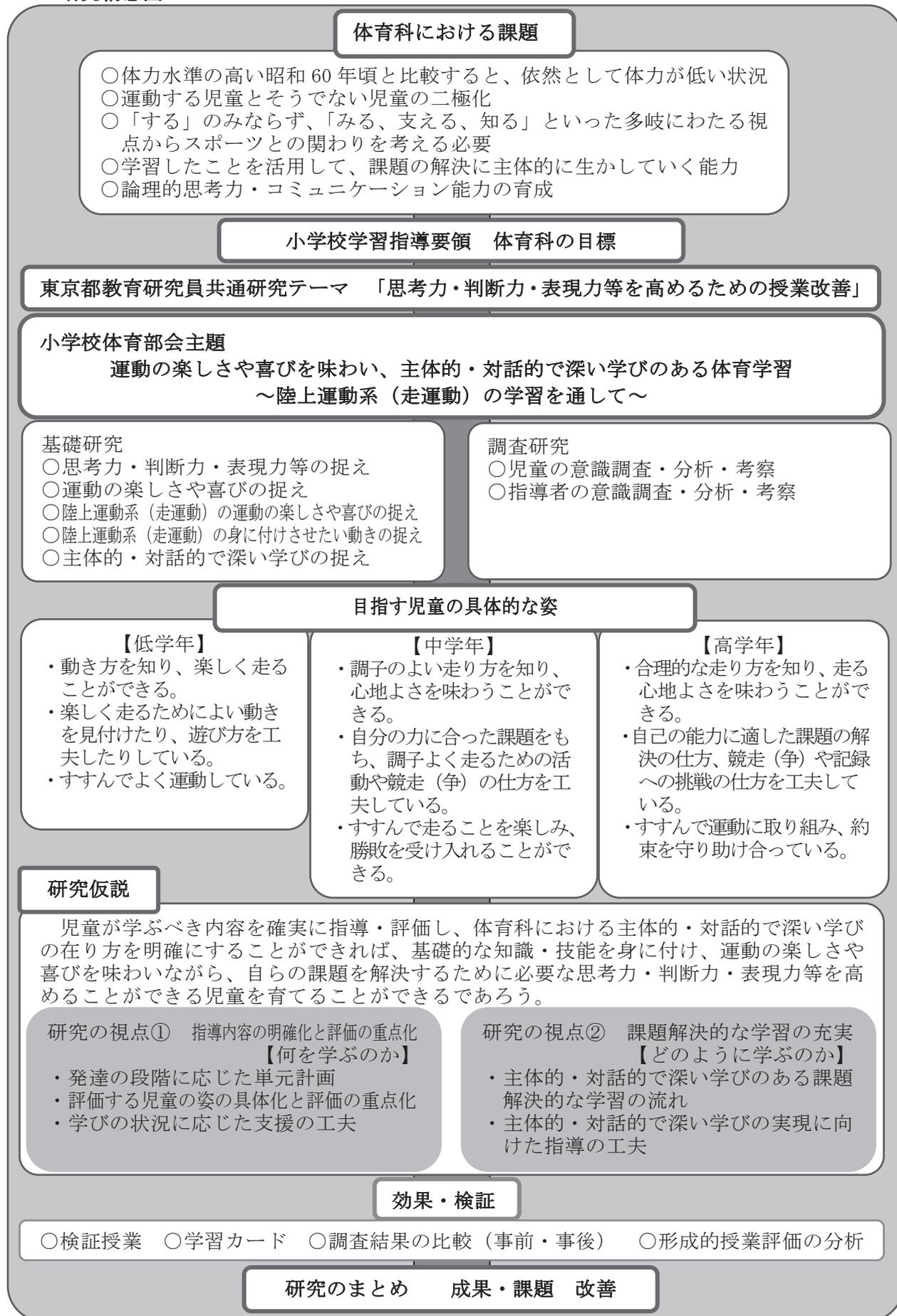
### 2 調査研究

指導者がより充実した指導を実践できるようにするため、児童及び指導者への質問紙による調査・分析を行った。

### 3 実践的研究

基礎研究、調査研究で明らかにした内容を基に、低・中・高学年での授業実践を行い、研究主題に迫るための視点及び手だてが有効であったかを検証した。

## V 研究構想図



## VI 研究内容

### 1 基礎研究

#### (1) 思考力・判断力・表現力等の捉え

学校教育法第30条の第2項において、同法第21条に掲げる目標を達成する際に、留意しなければならないことが次のように規定されている。

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

また、「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（平成28年8月26日）」では、次のようにも述べられている。

小学校運動領域については、自己の能力に適した運動課題をもち、課題の解決に向けて活動を選んだり工夫したりする力を重視する観点から、自己の能力に適した運動課題に気づき、解決するための活動を選ぶ、運動の行い方を工夫する、思考し判断したことを言葉や動作等で他者に伝える等の思考力・判断力・表現力を育成することが重要である。

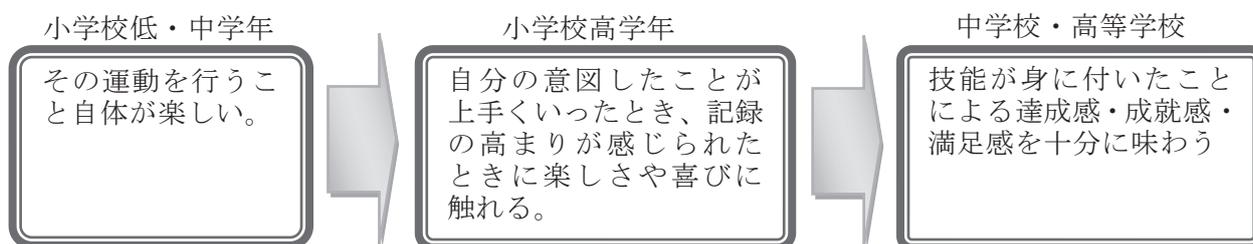
これらを整理すると、「思考力・判断力・表現力等」とは、基礎的な知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な能力と考えられる。また、課題を解決するために必要な能力として、「自己の能力に適した運動課題に気づく」「解決するための活動を選ぶ」「運動の行い方を工夫する」「思考し判断したことを言葉や動作等で他者に伝える」などが挙げられる。

#### (2) 運動の楽しさや喜びの捉え

小学校低・中学年の時期は、「おもしろいから自ら学ぶ」という動機が相対的に強い傾向にある。この時期は、知的好奇心が旺盛なため、面白さや楽しさに導かれて様々な活動に積極的に挑戦していこうとする姿が見られる。

小学校高学年頃になると、「自己実現のために自ら学ぶ」という動機が強くなる傾向が見られるようになる。成長や発達が進むにつれて、目標や自分なりの学びの価値付けによって、自ら学ぶ意欲が高まるようになる。

学ぶ意欲の発達の特性から、低・中学年では、体を動かすことそのものに楽しさを感じ、高学年ではそれに加え、自分の意図したことが上手くいったとき、記録の高まりを感じたときに満足感や成就感、達成感を味わうことが楽しさや喜びになると捉えた。また、中学校、高等学校では、達成感・成就感・満足感を十分に味わったときに楽しさや喜びを感じる。このように、運動の楽しさは、発達の段階によって質が変化していく。



(3) 陸上運動系（走運動）の楽しさや喜びの捉え

ア 発達の段階ごとに味わわせたい楽しさ

陸上運動系（走運動）の楽しさを以下の表に示す。

「小学校学習指導要領解説体育編」参考

	低学年	中学年	高学年
技能	○動き自体の面白さ・心地よさを味わう。		○体を巧みに操作しながら合理的で心地よい動きを味わう。
態度	○友達と仲よく練習や競走（争）をする。 ○勝敗を競い合う。	○友達と励まし合って練習や競走（争）をする。 ○勝敗を競い合う。	○友達と助け合って練習や競走（争）をする。 ○役割を果たす。
思考・判断	○場や遊び方を選ぶ。 ○友達のよい動きを見付ける。 ○遊び方を工夫する。	○自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶ。 ○動きを身に付けるための活動や競走（争）の仕方を工夫する。	○自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶ。 ○自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫する。

イ 陸上運動系（走運動）の楽しさ

走運動の本質的な魅力を味わうことが走運動の楽しさにつながると捉えた。

(ア) 走運動の本質的な魅力

走運動の本質的な魅力は以下の3点にあると捉えた。

- ① 走る心地よさを味わう
- ② 仲間と競走（争）すること
- ③ 目標や記録を達成すること

(イ) 走る心地よさとは

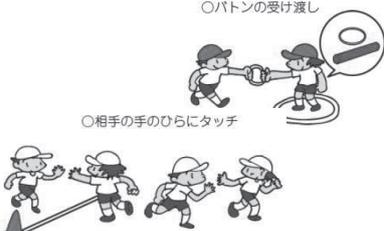
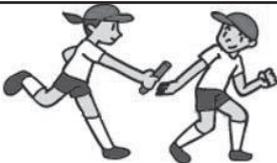
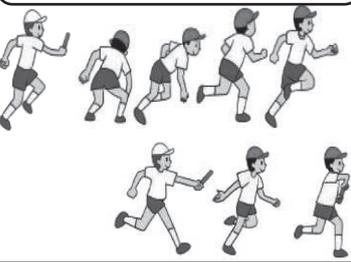
走運動を通して児童が心身ともに受けた刺激から体感する快適さ・気持ちよさ

(4) 陸上運動系（走運動）の身に付けさせたい動きの捉え

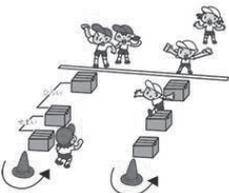
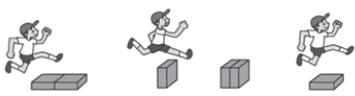
ア 走の運動遊び・かけっこ・短距離走

走の運動遊び・かけっこ	かけっこ	短距離走
心地よく走るために	調子よく走るために	全力で走るために
		
<p>コースに応じて巧みに体を操作して走る心地よさを味わわせる。 ↓ 同じコースや違うコースで友達と競走（争）する。 ↓ 学習内容が自然に身に付いていく。</p>	<p>前後に腕を大きく振る。 まっすぐ前を見る。 体を軽く前傾させる。</p>  <p>コーナーの内側に体を軽く傾ける。</p>	<p>スタンディングスタートでは体を傾け前足に体重をかける。 低い姿勢で走り出す。 目線を落とす。</p>  <p>中間走では、まっすぐ前を見る。 上半身の余分な力を抜く。</p>

イ 走の運動遊び・リレー

走の運動遊び・折り返しリレー遊び	リレー	リレー
 <p>○バトンの受け渡し ○相手の手のひらにタッチ</p>	<p>走りながらバトンパスをするために</p> 	<p>減速の少ないバトンパスをするために</p> 
<p>相手に手のひらを向けてタッチをする。 バトンを渡したり、受けたりする。</p>	<p>後ろの走者が近くにきたら走り始める。 バトンをもらう位置を決める。</p>	<p>スタートのタイミングを合わせる。 スピードを合わせてバトンパスを行う。</p>
<p>楽しく遊ぶことができるコースや遊び方を見付けて楽しませる。</p>		

ウ 走の運動遊び・小型ハードル走・ハードル走

走の運動遊び・低い障害物を用いたリレー遊び	小型ハードル走	ハードル走
	<p>自分に合ったリズムで走り越すために</p> 	<p>ハードルをリズムカルに走り越えるために</p> 
<p>障害物は同じ間隔で置いたり、間隔を変えたりしてコースを作る。 ↓ 楽しく遊ぶことができるコースや遊び方を見付けて楽しませる。</p>	<p>リズムを感じることができるコースを作る。 ↓ インターバルの距離や障害物の高さを変える。 ↓ 調子よく走れるリズムを見付ける。 ↓ 3歩のリズムで走り越える。</p>	<p>第一ハードルを決めた足で踏み切る。 上体を前傾させる。 インターバルを3～5歩のリズムで走る。</p>

## (5) 主体的・対話的で深い学びの捉え

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようにするためには、子供たちが「どのように学ぶか」という学びの質が重要になる。

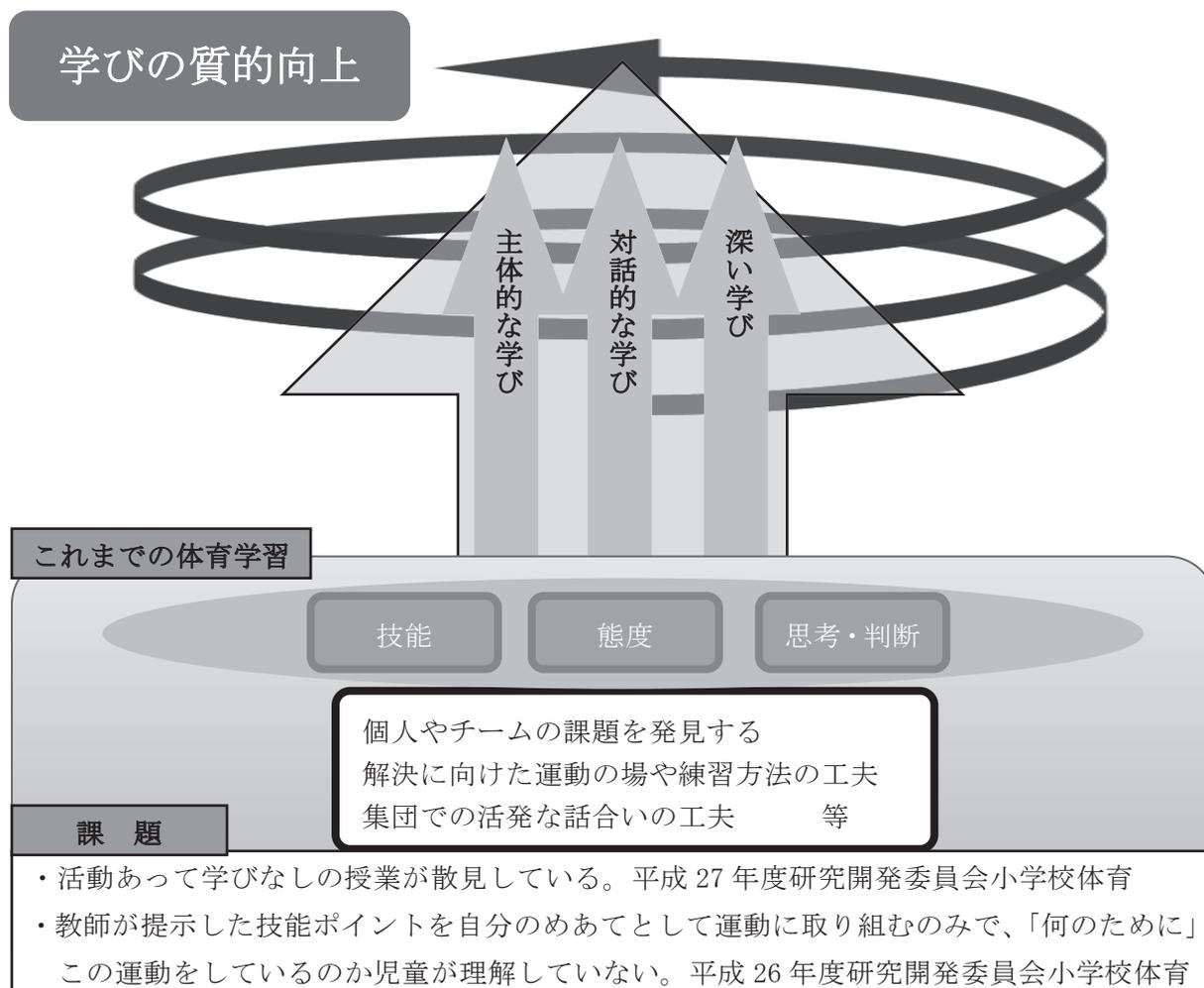
学びの質は、子供たちが、主体的に学ぶことの意味と人生や社会の在り方を結びつけたり、多様な人との対話で考えを広げたり、各教科等で身に付けた資質・能力を様々な課題の解決に生かすよう学びを深めたりすることによって高まると考えられる。こうした「主体的・対話的で深い学び」が実現するように、日々の授業を改善していくための視点を共有し、授業改善に向けた取組を活性化しようとするのが、「アクティブ・ラーニング」の視点である。

(「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(報告)」)

平成 28 年 8 月 26 日 文部科学省)

これまでの体育学習においても、課題解決的な学習が実践され、一定の成果を収めた一方で課題も生じていた。本研究では、その課題を解決し、学びの質の高い課題解決的な学習を実践することが、「主体的・対話的で深い学び」であると捉えた。

そのためには、児童自らが必要感をもって課題を発見したり気付いたりし、実感を伴いながら課題解決に取り組む過程が重要であると考え。質の高い課題解決的な学習を実践していくために、主体的・対話的で深い学びのプロセスを強く意図した授業を行う。



## 2 調査研究

研究員所属地区の指導者、研究員所属校の児童に対するアンケート調査の考察を行った。

### (1) 調査の目的

陸上運動系(走運動)における教員の指導の実態と児童の意識を比較分析することによって、課題解決的な学習の現状を明らかにする。

また、児童が感じている「走ることの楽しさ」を明らかにすることによって、本年度の研究を進める手掛かりとする。

### (2) 調査の方法

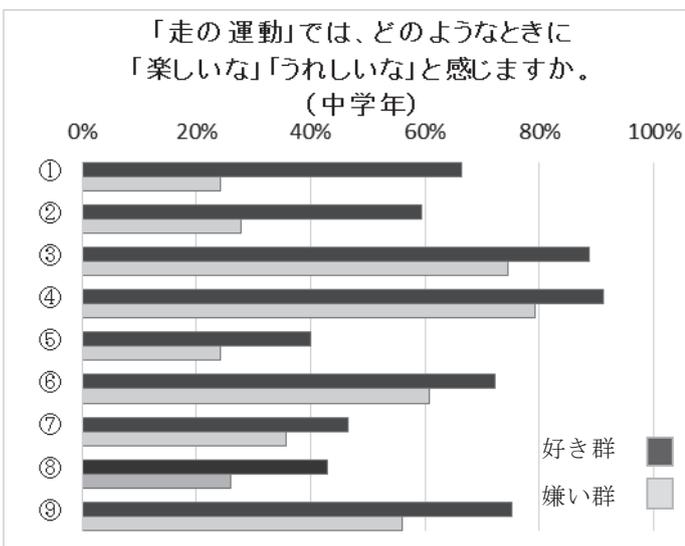
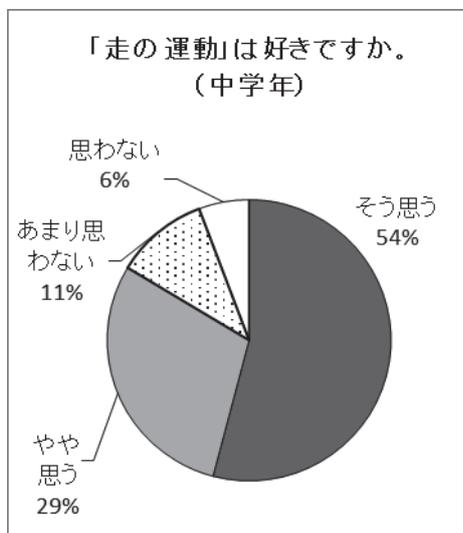
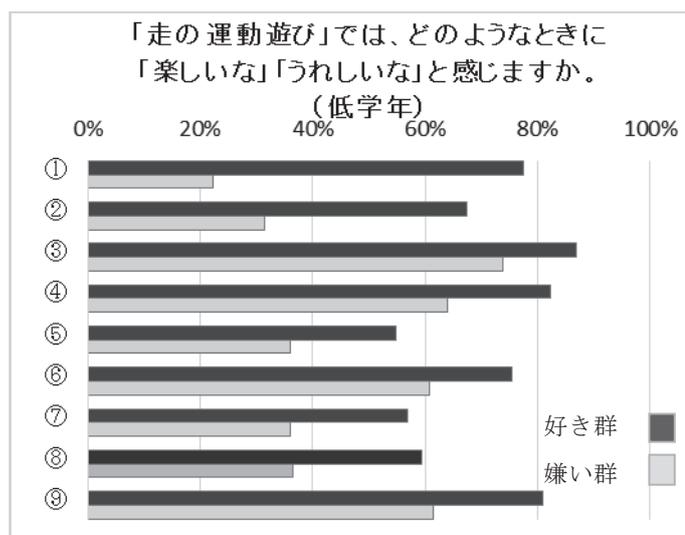
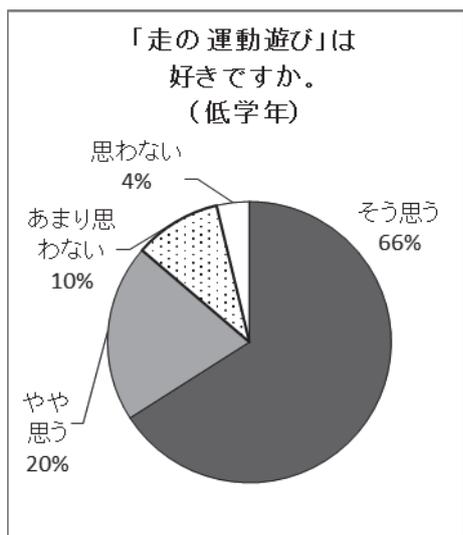
質問紙法による

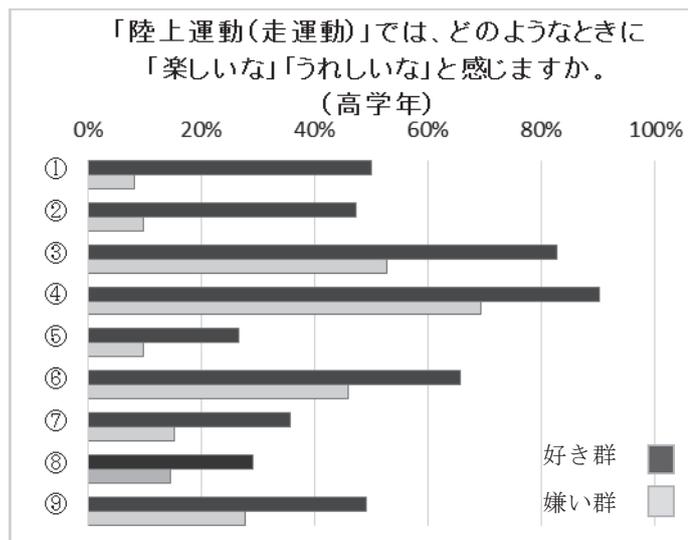
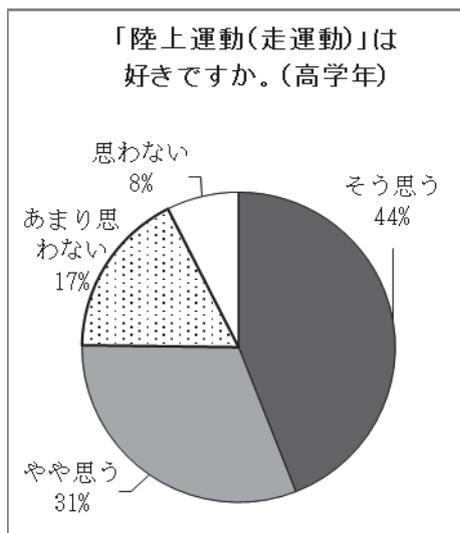
### (3) 調査の対象

- ・研究員所属校の児童（2年生 822人、4年生 1139人、6年生 1141人）
- ・研究員所属地区の昨年度体育を指導した教員（853人）

### (4) 調査の結果と分析

ア 陸上運動系（走運動）の楽しさについて、児童への調査結果（「陸上運動が好きですか」の設問に、そう思う、やや思うと答えた児童（好き群）と、あまり思わない、思わないと答えた児童（嫌い群）との比較





- ①走っているとき ②競走しているとき ③競走に勝ったとき ④記録が伸びたとき ⑤走り方やコースを工夫したとき ⑥こつやポイントが分かったとき ⑦走り方を友達から教わったり、友達に教えたりしたとき ⑧自分に合った練習の場で練習できたとき ⑨友達と励まし合って練習に取り組めたとき

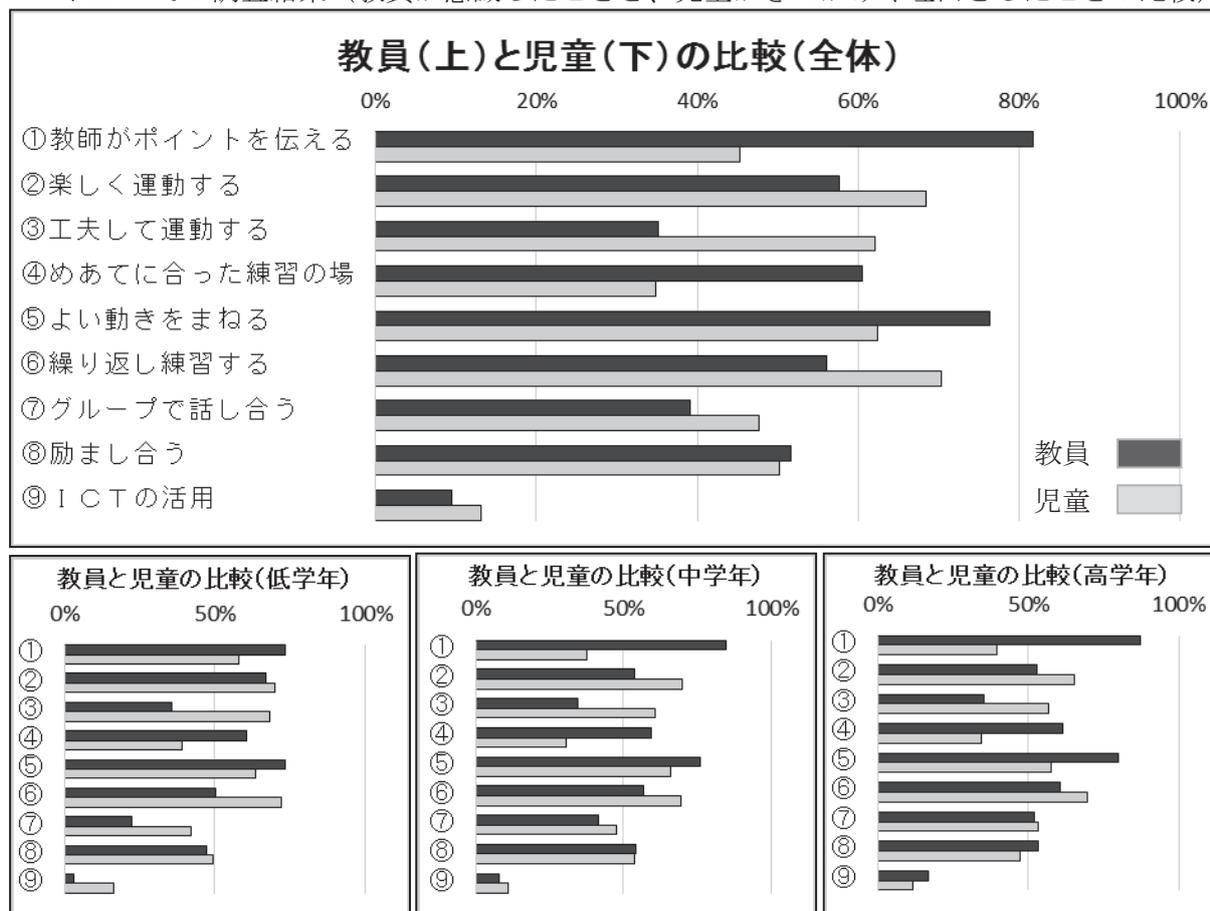
低学年の児童は、「走の運動遊びが好きですか」という質問に対して「好き、やや好き」と答えている児童が約9割おり、走る運動を肯定的に捉えていることが分かる。特に、「走っているとき、競走に勝ったとき、友達と励まし合って練習に取り組めたとき」に走る運動の楽しさを感じている。

中学年では、「走の運動が好きですか」という質問に対して、「好き」と答えた児童の割合が低学年と比較して1割ほど減っている。しかし、「競走に勝ったとき」「記録が伸びたとき」には、「好き、やや好き」と答えた児童の約9割、「嫌い、やや嫌い」と答えた児童でも約7割が、走る運動の楽しさを感じている。

高学年では、「陸上運動(走運動)が好きですか」という質問に対して「嫌い、やや嫌い」と答えた児童が低学年、中学年と比較して増加している。また、「嫌い、やや嫌い」と答えた児童の中で、「走っているとき」「競走しているとき」に走る運動の楽しさを感じている児童は約1割しかいない。個人の技能差がはっきりと出てしまう運動のため、高学年では、ただ走るだけでは走る運動の楽しさを味わうことができないのではないかと考えられる。しかし、「記録が伸びたとき」には、「好き、やや好き」と答えた児童では約9割、「嫌い、やや嫌い」と答えた児童でも約7割の児童が楽しさを感じている。

以上のことから低学年では、「走る心地よさを存分に味わうことで運動の楽しさを味わうこと」、中学年では「仲間と競走(争)を通して運動の楽しさを味わうこと」高学年では、「自らの記録の向上を通して運動の楽しさを味わうこと」を中心に据えて指導内容・指導計画を検討していく必要があると考えた。

イ 陸上運動系（走運動）で「できなかったことを（が）できるようにする（なった）」ことについての調査結果（教員が意識したことと、児童がきっかけや理由としたことの比較）



これらの調査結果から、走運動の実態について以下の点が明らかになった。

① 「教師がポイントを伝える」

約8割の教員は教えることを意識しているが、学年が上がるにつれ教えてもらうことが有効という児童は減っている。

② 「楽しく運動する」

約7割の児童は楽しく運動することが有効と考えている。

③ 「工夫して運動する」

教員が意識していなくても、児童なりに工夫して取り組んでいる。

④ 「めあてに合った練習の場」

約6割の教員は場を用意しているが、約7割の児童は自分に合った場だと考えていない。

⑥ 「繰り返し練習する」

十分な練習時間を確保している教員は半数だが、約7割の児童は繰り返し練習することが有効と考えている。

⑦⑧ 「話し合いや言葉掛け」

励まし合いに比べて話し合いを意識している教員は約1割少ない。

以上のことから、「楽しく運動すること」「友達との関わりの中で学ぶこと」「自分で工夫して試行錯誤しながら練習し、その中でポイントに気付くことができるようにすること」「自分の課題に合った場や練習を選べること」を念頭に授業づくりを進めていく必要があると考えた。

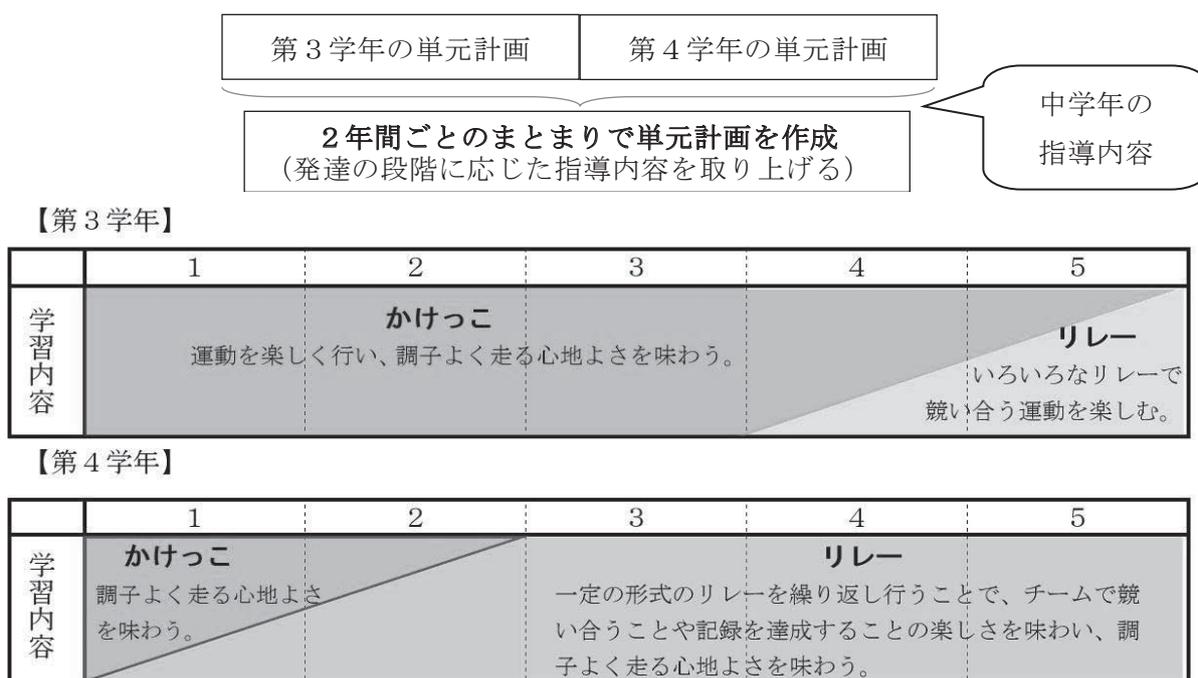
### 3 研究の視点に基づいた内容

#### (1) 指導内容の明確化と評価の重点化【何を学ぶのか】

##### ア 発達の段階に応じた単元計画

学習指導要領において示されている指導内容は、低・中・高学年、それぞれ二年間の指導内容であり、各学年で取り扱う指導内容を具体的に示すことで、指導内容が明確になると考えた。そこで、二年間の指導内容を吟味し、具体的な単元計画として示すことで、【何を学ぶのか】ということを整理した。

#### 【中学年「かけっこ・リレー」の例】

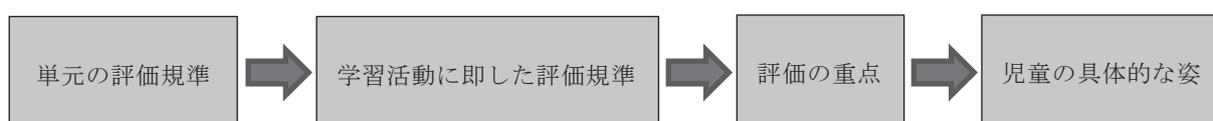


#### イ 評価する児童の姿の具体化と評価の重点化

児童が楽しさや喜びを味わいながら、課題解決的な学習を進められるようにするためには、教師の確実な評価が必要である。

まず、学習指導要領の内容から「単元の評価規準」を作成し、より具体化した「学習活動に即した評価規準」を設定する。実際の学習場面での具体的な児童の姿を想定しておくことで評価が的確になる。その際、評価項目を多くとも2項目とし、重点化を図ることが大事である。それを基に、「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」を意図的、計画的に評価できるように「単元計画」を立て、単元全体の計画としていく。

#### 【具体的な児童の姿を設定するまでの流れ】



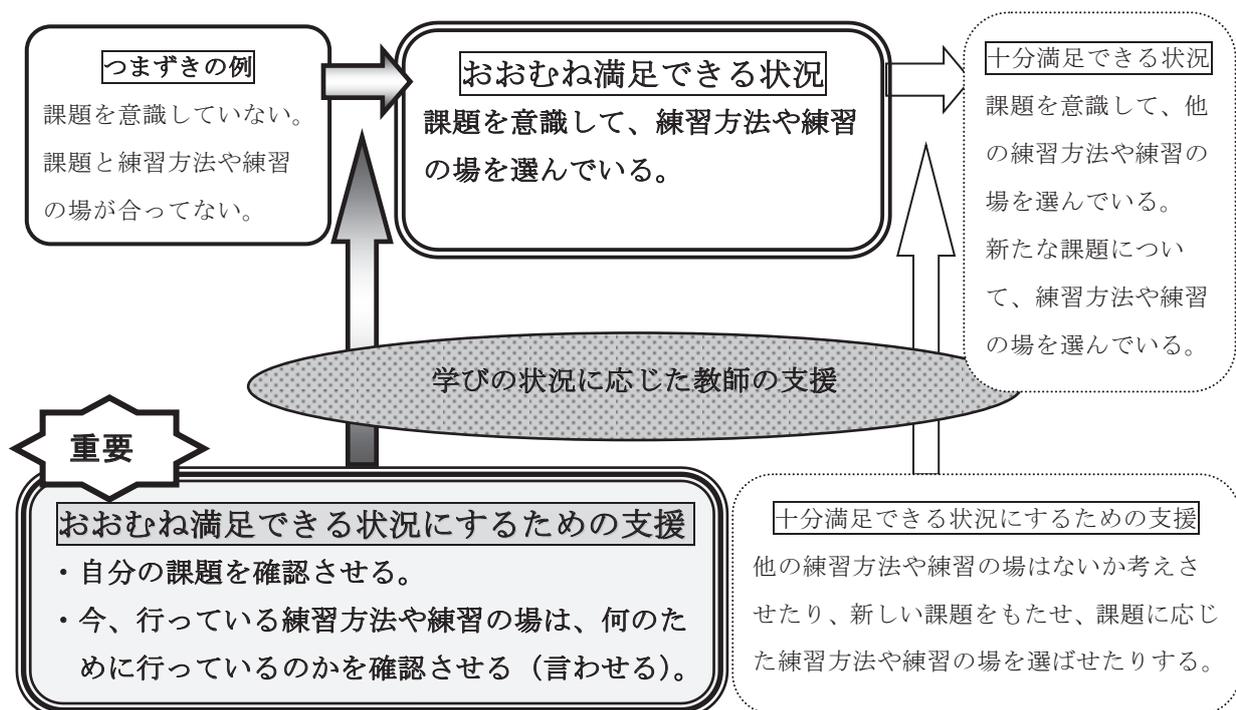
## ウ 学びの状況に応じた支援の工夫

評価規準を基に、本時のねらいに即した児童の学びの状況を、あらかじめ「十分満足できる状況」「おおむね満足できる状況」「努力を要する状況」として「児童の具体的な姿」を想定しておく。また、学習活動における典型的な児童のつまずきの例を把握しておくことで、「努力を要する状況」にある児童に対し、「おおむね満足できる状況」にするような具体的な手だてによる支援を行うことができると考えた。

### 【中学年「かけっこ・リレー」の例】

調子よく走るための練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる

【評価の重点 思考・判断②】



(2) 課題解決的な学習の充実【どのように学ぶのか】

ア 主体的・対話的で深い学びのある課題解決的な学習の流れ

体育学習を成立させるためには、児童が自身の能力・適性・興味・関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら課題を解決する学習が重要となる。本研究においても、課題解決的な学習を念頭に授業づくりを実践する。その際、課題解決的な学習の流れを「課題を設定する」「課題解決に取り組む」「課題を振り返る」とした。

また、学びの質を高めていくために、課題解決的な学習の流れと主体的な学び、対話的な学び、深い学びの関連を以下の図にまとめ、主体的・対話的で深い学びのある課題解決的な学習の流れとし、課題解決的な学習を充実させる手だてを示した。

なお、これらの三つの学びはそれぞれ独立して取り上げるのではなく、相互に関連を図り、体育科で求められる学びを一層充実することが重要である。

【主体的・対話的で深い学びのある課題解決的な学習の流れ】

【課題解決的な学習を充実させるための手だて】



※一単位時間の流れであるが、単元を通して一単位時間の流れに変化がある。また、必ずしも一方向の流れに限定されず、繰り返したり、戻ったりする場合もある。

## イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫

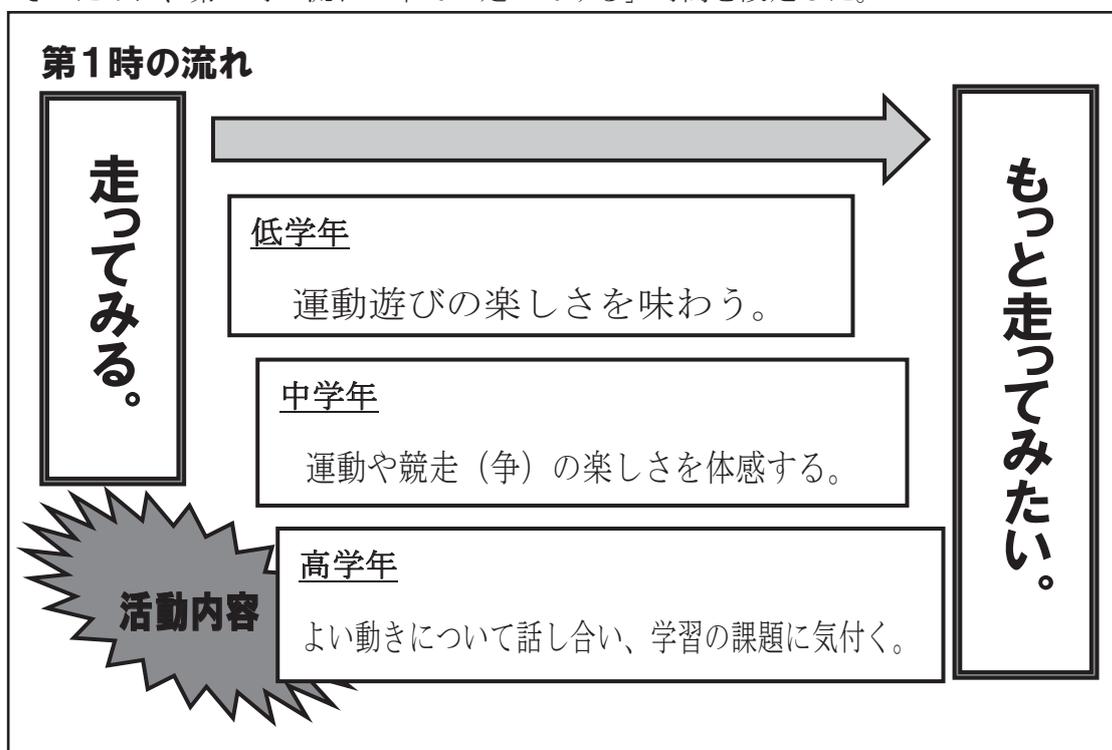
課題解決的な学習における学びの質を向上させるためには、主体的な学び、対話的な学び、深い学びのそれぞれの学びの場面をイメージして、具体的な手だてを考える必要がある。

次の(ア)から(オ)の手だては、全学年共通しているものもあるが、基本的には低・中・高学年の発達の段階や学校、学級の実態に合わせて柔軟に変えていくことができるように配慮することを想定している。

### (ア) オリエンテーションの設定

児童自ら課題を発見したり気付いたりするために、オリエンテーションの工夫を行った。オリエンテーションでは、運動との出会いを大切に、「運動に取り組みたい」「動きをよくしたい」という意欲や発達の段階に応じた必要感をもつことができるようにした。

そのために、第1時の流れの中で「走ってみる」時間を設定した。



(イ) 教材の精選

課題解決的な学習を進めるためには、児童の興味・関心に合った教材を提示し、児童の主体性を引き出す必要があると考えた。運動の楽しさを十分に味わうことができ、発達の段階に応じた課題を解決できるようにするために、次の観点で教材を精選した。

【低学年】遊びの中で走る心地よさを味わい、自然と動きを身に付けることのできる教材

【中学年】競走（争）を楽しみながら、調子のよい走りを身に付けることのできる教材

【高学年】自分の課題を解決し、合理的な動きを身に付けることのできる教材

低・中・高学年、それぞれの指導内容を踏まえ、運動の目的に応じた教材の具体例を表にまとめた。これらの教材を生かして主体的・対話的で深い学びのある課題解決的な学習を展開することが大切であると考える。

低学年	中学年	高学年
<p><b>遊びの中で走る心地よさを味わう。</b></p> <p>○じゃんけんステップ じゃんけんの勝敗で歩数を決め、歩幅を大きくして進む心地よさを味わう。</p> <p>○新聞ダッシュ 疾走感を味わう。</p> <p>○じゃんけんダッシュ 追いかけたり逃げたりする心地よさを味わう。</p>	<p><b>調子よく走ることの心地よさを味わう。</b></p> <p>○変形スタート 様々な体勢から調子よく走り出す。</p> <p>○まねっこジョギング 列になり、先頭の真似をしながら走る。</p>	<p><b>主運動につながる動きのポイントを体感する。</b></p> <p>○両手タッチ スタートの姿勢や反応を身に付ける。</p> <p>○ラダー走 短い間隔のラダーを、ももを上げて走り越す。</p>
<p><b>様々な楽しいコースの中から選んだり、楽しくなるように走り方を工夫したりする。</b></p> <p>○速く走るコース 速く走ることの心地よさを味わう。</p> <p>○リズムよく走るコース リズムよく走ることの心地よさを味わう。</p> <p>○様々な動きを取り入れたコース 体を様々な動かすことの心地よさを味わう。</p>	<p><b>誰もが気軽に競走（争）を楽しみながら、動き自体の面白さや心地よさに触れ、動きを身に付ける。</b></p> <p>○コーナー競走（争） 体を軽く内側に傾ける動きを身に付ける競走（争）。</p> <p>○ボールフラッグス リレーでのダッシュマークへの意識を高める競走（争）。</p>	<p><b>自分の課題を解決するための練習の場を選ぶ。</b></p> <p>○チェンジダッシュ 制限された動きを感じた後、合理的な走りにチェンジする。</p> <p>○フラフープハードル ハードルの下にフラフープを置き、遠くから踏み切る。</p>
<p><b>どのチームも工夫すれば勝てる競走（争）を行う。</b></p> <p>○ワープリレー 折り返すコーン（距離を変えて置く）を回る人数を決めることができるリレー。</p> <p>○お助けリレー スタートラインを調節できるリレー。</p> <p>○障害物リレー 様々な障害物を用いてコースを変えられるリレー。</p>	<p><b>全力を出すことのできる競走（争）を行い、課題の設定や解決に活用したり、運動のまとめとして、動きや記録の高まりを確認したりする。</b></p> <p>○パス&amp;フラット競走（争） フラット走とバトンパスの競走（争）。</p> <p>○小型ハードル競走（争） 相手に応じて、障害物の数を変えたり、距離を変えたりして競走（争）する。</p> <p>○対戦型周回リレー 全力を出せる競走（争）の場で、自チームのバトンパスを確かめながらの競走（争）。</p>	<p><b>競走（争）そのものの楽しさを味わいながら、合理的な動きを身に付ける。</b></p> <p>○スピードパス バトンパスの時に、一人で走る児童と競走（争）する。</p> <p>○パシュート型リレー 60m～100mの間で距離を自分で決めて走るリレー。</p> <p>○ハードルリレー チームの記録と個人の記録の達成や友達と競走（争）する楽しさを味わうリレー。</p>

#### (ウ) 関わり合いの充実

課題解決的な学習を進めるために、関わり合いの充実を図った。児童が関わり合って学習していくことで、動きのポイントやよい動きを共有し、自分の課題解決につながると考えた。

##### ○小集団活動の設定

児童が互いに言葉を掛け合ったり、励まし合ったりしながら学び合うことができるように小集団活動を設定した。

	関わり合いの視点	活動内容例
低学年	運動の楽しみ方や動き方	<ul style="list-style-type: none"><li>・一緒に遊び方を考えたりコースを作ったりする。</li><li>・グループで競走（争）をする。</li><li>・友達のよさを見付ける。</li></ul>
中学年	動きのポイントやよい動き	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達の動きを見合ったり、伝えたりする。</li><li>・ペア、グループを設定し、グループ同士で見合う。</li><li>・競走（争）の規則を考える。</li></ul>
高学年	運動の課題とその解決方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達の動きを見て、ポイントを見付ける。</li><li>・練習の場（解決方法）を選ぶ。</li></ul>

##### ○ICTの活用

上記の場面でICTを活用することで、より明確に自分や友達の動きや活動を確認することができ、仲間と豊かに関わり合うことができる。

##### 【活用例】

- ・児童が作ったコースを画像で記録し、掲示することで楽しさを共有する。
- ・自分の動きを動画で記録し、動きのポイントやよい動きを共有する。

(エ) 学習カードの工夫

児童が「主体的・対話的で深い学び」を積み重ねることが、質の高い課題解決的な学習の実現につながると考えた。以下の視点で学習カードを工夫した。

- ・児童が「主体的・対話的で深い学び」を振り返るために、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」における振り返りの視点を明確にする。

振り返る学び	項目設定の観点	形式
主体的な学び	公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全	選択式
対話的な学び	助け合い、教え合い、認め合い、励まし合い	
深い学び	課題の到達度の確認	

- ・児童がよりよく課題解決的な学習を行うために、自分の課題を確認し、振り返ることができるようにする。

発達の段階	記述する内容	形式
低学年	運動の楽しみ方や動き方に対する振り返り	自由記述式
中学年	動きのポイントやよい動きに対する振り返り	
高学年	運動の課題とその解決方法に対する振り返り	

【中学年の例】

めあて

うでをふって全力で走る

「はい」と声をかける

バトンをわたした後もゾーン内を走り続ける

ダッシュマークをよく見る

すばやく走り出す

バトンを受けやすいように右手を出す

しっかりとバトンをにぎる

左手に持ちかえる

学習を振り返ろう 【◎よくできた ○できた △もう少し】

	学習したこと	マーク
①	競走(争)を楽しみながら、すすんで運動することができた。	
②	友達とはげまし合いながら運動することができた。	
③	めあてを意きして運動することができた。	

★感想(めあてに対して書きましょう)★

あらかじめ示した技能ポイントに加え、児童が見付けた運動のポイントや分かったことを書きこめるようにする。

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の観点から振り返ることができるようにする。

動きのポイントやよい動きに対する振り返りを記入できるようにする。

(カ) 教師の意図的な言葉掛け

児童が試行錯誤しながら運動を行い、学びの質の高い課題解決的な学習を実践していけるように、主体的・対話的で深い学びのある課題解決的な学習の流れに沿って、一単位時間の教師の言葉掛けを意図的、計画的に実践していく。教師が課題や解決の仕方を一方的に伝えるのではなく、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の過程に沿った言葉掛けをすることで、児童の思考を促し、学びを深めていく。

課題解決的な学習の流れ	児童の姿	教師の意図的な言葉掛け
課題を設定する	どのようなめあてにすればいいのだろう。	運動をしながら見つけましょう。
	運動したことで自分に合った、めあてを立ててみよう。 [主][対][深]	自分に合った、めあてを立てましょう。
課題解決に取り組む	できるだけやってみよう。[主]	どのように解決していけばよいのでしょうか。
	友達とでめあてを確認し合って、動きを見ながら言葉を掛けてみよう。[対]	
	場や競走（争）の仕方を選んだり工夫したりしてみよう。 [深]	どのようにしたらできましたか。 なぜうまくいかなかったのでしょうか。
課題を振り返る	達成できたから、新しいめあてを立ててみよう。[主]	めあては達成できましたか。
	友達とできたかどうか話し合ってみよう。[対]	
	学習カードで、できたかどうか確認しよう。[深]	

※一単位時間の流れであるが、単元を通して一単位時間流れの変化がある。また、必ずしも一方向の流れに限定されず、繰り返したり、立ち戻ったりする場合もある。

4 実践事例（中学年：第4学年で実証）

(1) 単元名 走・跳の運動「かけっこ・リレー」

(2) 単元の目標

技能	かけっこ・リレーを楽しく行い、調子よく走ることができるようにする。
態度	かけっこ・リレーにすすんで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	自己の能力に適した課題をもち、動きを身に付けるための活動や競走（争）の仕方を工夫できるようにする。

(3) 評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけっこ・リレーにすすんで取り組もうとしている。</li> <li>・運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って練習や競走（争）をしようとしたり、勝敗の結果を受け入れようとしたりしている。</li> <li>・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>・運動する場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけっこ・リレーの動きのポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。</li> <li>・かけっこ・リレーの動きを身に付けるための練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。</li> <li>・仲間との競走（争）の仕方を知るとともに、競走（争）の規則を選んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけっこ・リレーで調子よく走ることができる。</li> </ul>
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①かけっこ・リレーを楽しむための活動にすすんで取り組もうとしている。</li> <li>②きまりを守り、友達と励まし合って練習や競走（争）をしようとしたり、勝敗の結果を受け入れようとしたりしている。</li> <li>③協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>④場や用具の使い方などの安全を確かめながら、運動しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①調子よく走るためのポイントを知るとともに、自分の課題を見付けている。</li> <li>②調子よく走るための練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。</li> <li>③誰もが楽しめる競走（争）の仕方を知るとともに、競走（争）の規則を選んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自分の力に応じて、最後まで調子よく走ることができる。</li> <li>②テークオーバーゾーン内で走りながらバトンパスをすることができる。</li> <li>③コーナーの内側に体を軽く傾けて走ることができる。</li> </ul>

(4) 単元計画

ア 第3学年（評価規準の丸番号は、学習活動に即した評価規準の番号を示す。）

時	1	2	3	4	5
本時のねらい	◇かけっこの楽しさを体感し、学習意欲を高める。 ◇学習内容と学習の進め方を知り、よい走り方について考える。	◇いろいろなかかけっこを通して、楽しく運動に取り組みながら、調子よく走る。	◇いろいろなかかけっこを通して、調子よく走る。	◇いろいろなかかけっこを通して、楽しく運動を行いながら、調子よく走る。	
学習活動	オリエンテーション 1 学習の流れを確認する。 2 安全についての約束を知る。 3 場の準備をする。 4 準備運動をする。 5 よい走り方について考え、動きに制限を加えた走りをする。 6 速く走るためには、どうすればいいか考える。 7 制限を加えた走り方から、普通の走り方へ戻し、よい走り方は、どのようなものか体感する。 8 チーム対戦型のかけっこを行う。 9 競走（争）の行い方を知る。 10 場の片付けをする。 11 整理運動をする。 12 学習のまとめをする。	1 学習の流れを確認する。 2 場の準備をする。 3 準備運動をする。 4 いろいろなかかけっこをする。 5 ○変形スタート 色々な姿勢から、素早く走り出す。 6 チーム対戦型のかけっこを行う。 7 場の片付けをする。 8 整理運動をする。 9 学習のまとめをする。	1 学習の流れを確認する。 2 場の準備をする。 3 準備運動をする。 4 いろいろなかかけっこをする。 5 ○変形スタート 色々な姿勢から、素早く走り出す。 6 チーム対戦型のかけっこを行う。 7 場の片付けをする。 8 整理運動をする。 9 学習のまとめをする。	1 学習の流れを確認する。 2 場の準備をする。 3 準備運動をする。 4 いろいろなかかけっこをする。 5 ○コーナー走 コーナーを使ってスタート位置を変えながら走る。 6 体を内側に傾けて走る。 7 チーム対戦型のリレーを行う。 8 場の片付けをする。 9 整理運動をする。 10 学習のまとめをする。	
評価の重点	③ ④	①	① ①	②	② ③
児童の具体的な姿	友達と協力して、用具の準備や片付けをしている。	運動のポイントを理解して自分の課題を見付けている。	運動のポイントを理解して自分の課題を見付けている。	最後まで調子よく、全力で走っている。	課題を意識して、練習方法や練習の場を選んでいる。
つまずきの例	用具の準備や片付けの仕方が分からない。	自分の課題を見付けることができない。	自分の課題を見付けることができない。	体の使い方が分からず、途中で力を抜いてしまう。	課題を意識して、練習方法や練習の場が合っていない。 自分の課題を確認して、練習方法や練習の場を選んでいる。
おおむね満足できる状況にするための支援	使用する用具やコーンの場所などを分かりやすく掲示する。 片付けを促す。 児童を称賛し、全体に価値付けを行う。 より早く、丁寧に行えるよう言葉掛けをする。	運動する場の状況を確認せずに走ってしまう。 場の安全を確認することの大切さを伝える。 安全が確保されることができていることを伝える。 周囲に積極的に声を掛けながら、安全への意識を広める。 言葉掛けをする。	運動のポイントや今の動きを伝えながら、教師と一緒に課題を見付けさせる。 ICTを活用し、自分の動きを視覚的に理解させる。 自分と比べながら、友達の問題も見付けられるようさせる。	最後まで腕を大きく振ること、体前を後ろに傾けること、このポイントに気付けさせる。 前後に腕を大きく振ること、まっすぐ前を見ることが、体を大きく振ること、このポイントに気付けさせる。	外側の腕を少し大きく振ること、内側の腕を大きく振ること、このポイントに気付けさせる。 前後に腕を大きく振ること、まっすぐ前を見ることが、体を大きく振ること、このポイントに気付けさせる。
十分満足できる状況にするための支援		一回の競走（争）の大切さを伝え、集中力を高めさせる。	一回の競走（争）の大切さを伝え、集中力を高めさせる。	さらに動きの質を高めていくよう言葉掛けをする。	コーナーの位置によつて、体の傾け方を考えさせる。 他の練習方法や練習の場はないか考えさせたり、新しい課題をもたせ、課題に合った練習方法や練習の場を選ばせたりする。

イ 第4学年（評価規程の丸番号は、学習活動に即した評価規程の番号を示す。）

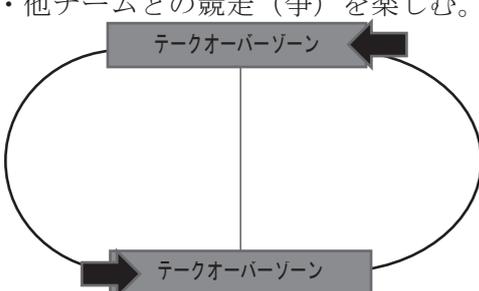
時	1	2	3	4（本時）	5
本時のねらい	<p>◇リレーの楽しさを体感し、学習意欲を高める。</p> <p>◇学習内容と学習の進め方を知り、よいバトンパスについて考える。</p>	<p>◇練習の仕方を知り、自分の課題について考える。</p> <p>◇競走（争）を楽しむ、調子のよい走り方を身に付ける。</p>	<p>◇誰もが楽しめる競走（争）の仕方を知り、競走（争）の規則を選ぶ。</p> <p>◇自分に合った課題を選び、解決に向けた運動に取り組むことを通して、調子のよい走り方やバトンパスの仕方を身に付ける。</p>		
学習活動	<p><b>オリエンテーション</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学習内容を理解する。</li> <li>リレーのルールを知る。</li> <li>安全についての約束を知る。</li> <li>場の準備をする。</li> <li>準備運動をする。</li> <li>対戦型周回リレーを行う。</li> <li>最初の記録を計測する。</li> <li>よいバトンパスについて考える。</li> <li>学習の進め方を理解する。</li> <li>学習の進め方や学習資料、学習カードの使い方を教える。</li> <li>場の片付けをする。</li> <li>整理運動をする。</li> <li>学習のまとめをする。</li> <li>次時の学習について知る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学習の流れを確認する。</li> <li>場の準備をする。</li> <li>準備運動をする。</li> <li>運動の仕方を理解する。</li> <li>調子のよい走り方を身に付けるため競走（争）を知る。</li> <li>バトンパスの技を高める練習をする。</li> <li>学習計画の設定をする。</li> <li>チームの課題解決に向けて、練習計画を立てる。</li> <li>場の片付けをする。</li> <li>整理運動をする。</li> <li>学習のまとめをする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学習の流れを確認する。</li> <li>場の準備をする。</li> <li>準備運動をする。</li> <li>競走（争）を楽しむながら調子のよい走り方を身に付ける。</li> <li>走ることを楽しみながら、コーナーでの走りやバトンパスにつながらる技を高める。</li> </ol> <p>コーナー競走（争） ポールフラッグス ロケットダッシュユ走</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>走りながらバトンパスする力を身に付ける。</li> <li>小集団で練習方法や場を選び、バトンパスの技を高め合う。</li> <li>※1 チームは4人で計8チームとする。</li> <li>※2 チームずつで組になり、互いにアドバイスをする。</li> </ol> <p>バトンパスの練習 パス&amp;フラット競走（争）</p>	
評価の重点	③ ④	①	②	③	①
児童の具体的な姿	<p>友達と協力して、用具の準備や片付けをしている。</p>	<p>最後まで調子よく、全力で走っている。</p>	<p>課題を意識して、練習方法や練習の場を選んでいる。</p>	<p>コーナーの内側に体を軽く傾けて走っている。</p>	<p>リレーにすすんで取り組み、運動を楽しんでいる。</p>
つまずきの例	<p>用具の扱い方がコースの安全を確かめていない。</p> <p>用具の扱い方が運動する場の状況を確認せずに走ってしまう。</p>	<p>前後に腕を大きく振ること、まっすぐ前を見ること、体を軽く前傾させること等のポイントに気が付かない。</p>	<p>競走（争）の仕方を確認させている。足を一歩下げさせたり、コーナーでは内側のコースを選んで走り、外側の手を下げさせるといった具体的な助言をする。</p>	<p>重心が分かつと、体を傾けて走ることができない。</p>	<p>やみくもに運動に取り組んでいる。</p>
おおむね満足できる状況にするための支援	<p>使用する用具やコーナーの場所などを分りやすく掲示する。</p> <p>準備や片付けをしている児童を称賛し、全体に価値付ける。</p>	<p>運動のポイントを理解して自分の課題を見つけている。</p> <p>自分の課題を見ることができない。</p> <p>運動のポイントを伝えながら、教師と一緒に課題を見つけていく。</p> <p>ICTを活用し、自分の動きを視覚的に理解させる。</p>	<p>自分の課題を確認させている。練習方法や練習の場を選んでいる。</p> <p>自分の課題を確認させている。練習方法や練習の場を選んでいる。</p>	<p>外側の腕を少し大きく振ることを意識させる。</p> <p>両手を広げ、コーナーの内側の方の手を下げさせる。心をつかませる。</p>	<p>自分が走り切ることが力になることと、記録を伸ばすことが目標であることを確認できるように言葉で伝える。</p>
十分満足できる状況にするための支援		<p>さらに動きの質を高めていくように言葉で掛ける。</p>	<p>勝敗に関わらず、よい励まし合いをしていくよう（グループ）を称賛し、全体で共有する。</p>	<p>競走（争）を楽しむよう、規則を考えられ、規則のように言葉で掛ける。</p>	<p>さらにバトンパスの質を高めていくように言葉で掛ける。</p>

(5) 本時の展開 (第4学年 4/5時間目)

ア 本時の目標

- ・コーナーの内側に体を軽く傾けて走ることができるようにする。(技能)
- ・リレーを楽しむための活動にすすんで取り組むことができるようにする。(態度)
- ・誰もが楽しめる競走(争)の仕方を知るとともに、競走(争)の規則を選ぶことができるようにする。(思考・判断)

イ 本時の流れ

学習活動	○指導上の留意点 ☆評価
<p>1 学習内容の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     よりよいバトンパスを目指して、ポイントを意識して運動しよう。                 </div>	<p>○学習の流れと本時のめあてを把握できるように掲示物で確認する。</p>
<p>2 場の準備をする。 3 準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主運動で使う部位を中心に体をほぐす。</li> <li>・屈伸→伸脚→深く伸脚→股関節→アキレス腱→肩回し→胴ひねり→二人組(レッグ・スイング もも上げ)</li> </ul>	<p>○走る動きでよく動かす部分、特に股関節や肩の可動域を広げる運動を行う。 ○二人組での運動も取り入れることで、関わり合うことの大切さも意識できるようにする。</p>
<p>4 競走(争)を楽しみながら調子のよい走りを身に付ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーナー競走(争)</li> <li>・ボールフラッグス</li> <li>・ロケットダッシュ走</li> </ul> </div>	<p>○走りながらバトンパスをする動き、コーナーを走る動きを楽しみながら身に付けることができるように競走(争)を行う。 ○どの児童にも勝つ機会があるように、競走(争)の行い方を工夫する。</p>
<p>5 走りながらバトンパスをする力を身に付ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バトンパスの練習</li> <li>・パス&amp;フラット競走(争)</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで練習方法を選び、バトンパスの技能を高める。</li> </ul> <p>※1チームは4人で計8チーム</p>	<p>○「渡すとき」「受けるとき」の課題を意識しながら練習できるように、事前に自分の課題を確認させておく。また、友達の課題も把握しておくよう言葉を掛ける。 ○バトンパスの練習をメインとするが、4学年という発達の段階を考慮し、習熟状況に応じて選択できるようにする。</p>
<p>6 対戦型リレーを楽しみ記録の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習の成果を発揮することを意識して走り、最高記録を目指すことを楽しむ。</li> <li>・他チームとの競走(争)を楽しむ。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div>	<p>○競走(争)を楽しむことへの価値付けを行うが、勝敗のみで終わらず、記録にも目を向けるようにすることで、チームの到達度を図ることができるようにする。 ○どの児童も達成感が味わえるように、リレーで結果がでなくても、練習で上手くいったことを称賛し、1時間の学びの成果を価値付ける。 ☆誰もが楽しめる競走(争)の仕方を知るとともに、競走(争)の規則を選んでいく。 【思考・判断】 ☆コーナーの内側に体を軽く傾けて走ることができる。 【技能】</p>
<p>7 場の片付けをする。 8 整理運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使った部位をほぐし、自分の体の様子を確認する。</li> </ul> <p>9 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノートで本時を振り返る。</li> <li>・バトンパスの上達や友達のよかったところ等を伝え合う。</li> <li>・次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<p>○心と体をしっかりとクールダウンできるように言葉を掛ける。怪我の有無を確認し、状況に応じて対応する。 ○運動時間や話し合いの時間を確保するためにノートに記入する内容はできる限り簡単にする。 ○全体の話し合いでは、児童一人一人が様々な視点から達成感を味わえるように配慮する。</p>

ウ 本時における教師の意図的な言葉掛け

	児童の姿	教師の意図的な言葉掛け
課題を設定する	<p>【本時のめあて】 よりよいバトンパスを目指して、ポイントを意識して運動しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日のリレー楽しみだな。</li> <li>よい記録を出したいな。</li> <li>リレーで勝ちたいな。</li> </ul> <p>ポイントを意識して運動することです。「渡すとき」と「受けるとき」の課題を確認しました。</p>	<p>よい記録や勝利のために、大切なことは何ですか。</p> <p>今までの学習の成果と課題を想起し、課題をもつことの大切さに気付かせる。</p>
課題解決に取り組む	<p>◆競走（争）を楽しみながら調子のよい走りを身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>力いっぱい走っているけど、いつも勝つことができない。</li> <li>お互いに全力で競走（争）して走る力を高めたい。</li> <li>ポイントを意識したらコーナーが走りやすくなった。</li> </ul> <p>◆走りながらバトンパスをする力を身に付ける。</p> <p>課題は… 【渡すとき】 うでをふって全力で走る。 【受けるとき】 ダッシュマークをよく見る。</p> <p>◆対戦型リレーを楽しみ記録の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>勝つために上手にバトンを渡したい。</li> <li>渡すまでスピードをゆるめないよ。</li> <li>ダッシュマークの時に合図をするよ。</li> </ul>	<p>力いっぱい走り、勝敗が最後まで分からない競走（争）をするためにはどうしたらよいですか。</p> <p>動きのポイントを意識して競走（争）するともっといいですよ。</p> <p>楽しみながら、調子のよい走りを自然と身に付けられるように、競走（争）の仕方や規則を選ぶように言葉を掛ける。</p> <p>自分のめあては何か、友達と伝え合いましょう。</p> <p>課題解決のために必要なことを伝える。必要に応じて指導を行う。</p> <p>どうしたらバトンパスが上手いくかチームで話し合おう。</p> <p>練習の成果を十分に発揮しようという意識付けを行う。</p>
課題を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録が伸びた（伸びなかった）。</li> <li>相手チームに勝った（負けた）。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日うでをふって全力で走ることができた。</li> <li>友達とアドバイスし合えて、嬉しかった。</li> <li>次は「ハイ」と声を出してバトンを渡せるようになりたい。</li> </ul> <p>次時もしっかりと課題をもって運動をし、自分の力を高めたい。</p>	<p>記録の伸びや競走（争）の勝ち負けから、自分たちのどんなところが上達したのか、次の課題は何かを考えてみましょう。</p> <p>記録や勝敗の結果が全てではありません。いろいろなよさを伝え合いましょう。</p> <p>様々な視点から自分の課題解決について振り返ることができるようにする。毎時間、成長や達成感を味わえるようにすることで、学習意欲を次時につなげていく。</p>

## Ⅷ 成果と課題

東京都教育研究員共通テーマ「思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善」を受け、「運動の楽しさや喜びを味わい、主体的・対話的で深い学びのある体育学習～陸上運動系（走運動）の学習を通して～」という研究主題を設定し、「指導内容の明確化と評価の重点化【何を学ぶのか】」及び「課題解決的な学習の充実【どのように学ぶのか】」の2点を研究の視点として研究を進めてきた。

### 1 成果

- (1) 課題解決的な学習の充実に向けた、主体的・対話的で深い学びのある学習の流れの在り方を示すことができた。学習の流れを、「課題を設定する」「課題解決に取り組む」「課題を振り返る」と設定し、手だてを考えることで、児童が目的意識（必要感）をもって意欲的に課題を解決することができた。
- (2) 陸上運動系（走運動）の単元計画に、評価する児童の姿を具体化し、評価の重点化を図った。計画的に児童を見取っていくことで、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能」の3観点についてバランスよく評価をすることができ、学習効果を高めることができた。
- (3) 教師が指導すること、児童に気付かせたいことを明確にすることで、児童が主体的に課題を解決する姿が多く見られた。教師の意図的な言葉掛けの工夫を一単位時間の流れで示すことにより、児童の課題解決的な学習を充実させることができた。

### 2 課題

- (1) 児童が自ら学ぶことができたという実感を引き出すような指導をすると、主体的な学びにつながっていくことが分かってきた。しかし、運動量の確保と、児童に試行錯誤をさせ、学びを実感させる時間のバランスを取ることが難しい。効率的な方法を探り、今後も検証していく必要がある。
- (2) 「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（平成28年8月26日）」において、対話的な学びの手段として、ICTの活用が示されている。本研究では、活用方法を検討することができたが、場面や活用方法等、より具体的かつ効果的な方法について、効果の検証を行う必要がある。
- (3) 子供たちの力をよりよく育成していくためには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手だてを講じ、不断の授業改善を図るための研究が重要である。本研究においても、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を図った。具体的な手だてを講じるのに時間を費やしたため、今後も実証授業を重ね、手だての効果検証、研究内容の普及に努める必要がある。

平成 28 年度 教育研究員名簿  
小学校・体育

学校名	職 名	氏 名
【低学年分科会】		
江 東 区 立 豊 洲 西 小 学 校	主幹教諭	林 正隆
大 田 区 立 小 池 小 学 校	主任教諭	鈴木 博行
葛 飾 区 立 南 奥 戸 小 学 校	主幹教諭	○ 青木 大輔
小 平 市 立 学 園 東 小 学 校	主任教諭	千葉 富美江
国 分 寺 市 立 第 十 小 学 校	主幹教諭	◇ 川島 一樹
【中学年分科会】		
中 央 区 立 久 松 小 学 校	主任教諭	研 川瀬 穰
新 宿 区 立 柏 木 小 学 校	主任教諭	小林 義伸
杉 並 区 立 桃 井 第 一 小 学 校	主幹教諭	調 中村 恵美
足 立 区 立 湫 江 第 一 小 学 校	主任教諭	◇ 竹内 政一
青 梅 市 立 第 一 小 学 校	主任教諭	黒田 陽介
【高学年分科会】		
世 田 谷 区 立 九 品 仏 小 学 校	主幹教諭	○ 森田 好一
荒 川 区 立 峡 田 小 学 校	主任教諭	上間 一蔵
葛 飾 区 立 青 戸 小 学 校	主幹教諭	◎ 福岡 勇人
三 鷹 市 立 中 原 小 学 校	主任教諭	◇ 高橋 秀政
日 野 市 立 潤 徳 小 学 校	主任教諭	基 鈴木 信也

◎全体世話人    ○全体副世話人    ◇分科会世話人    □各部長  
〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課    指導主事    唐澤 好彦

<引用文献及び参考文献>

- 1 小学校学習指導要領（文部科学省 平成 20 年 3 月）
- 2 小学校学習指導要領解説体育編（文部科学省 平成 20 年 8 月）
- 3 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（平成 28 年 8 月 26 日）
- 4 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 体育】  
（文部科学省国立教育行政研究所 教育課程センター 平成 23 年 11 月）
- 5 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック（文部科学省）
- 6 アクティブプラン to 2020 総合的な子供の基礎体力向上方策（第 3 次推進計画）  
（東京都教育委員会 平成 28 年 1 月）
- 7 平成 26 年度研究開発委員会（小学校体育）指導資料集（平成 27 年 3 月）
- 8 平成 27 年度研究開発委員会（小学校体育）指導資料集（平成 28 年 3 月）

平成28年度

教育研究員研究報告書  
小学校・体育

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 株式会社オゾニックス